

令和4年12月
東京三協信用金庫

独立行政法人 国際協力機構(JICA)が発行する 「ソーシャルボンド」への投資について

東京三協信用金庫(理事長:中島久喜、以下当金庫)は、資産運用を通じた社会貢献と 2015 年に国連が定めた持続可能な開発目標(SDGs)達成への取組として、独立行政法人国際協力機構(以下JICA)が発行する「ソーシャルボンド」への投資を実施いたしました。

ソーシャルボンドとは、調達された資金が、基礎インフラ開発や社会サービスへのアクセス改善等、社会課題への対応を目的とした分野への投融資に利用されることを前提として発行される債券です。

本ソーシャルボンドにより調達された資金は、JICA が実施機関となっている政府開発援助(ODA)の有償資金協力事業を通じて、開発途上地域の経済・社会の開発、日本及び国際経済社会の健全な発展のために使用されます。

事業の実施においては、明確なルールのもと、透明性・公正性を確保しており、投資された資金の使途やその成果を確認することができます。また、2019 年に日本政府が公表した「SDGs 実施指針改定版」において、JICA 債の発行が SDGs 達成に必要な資金を確保するためのファイナンスとして掲げられています。

当金庫は、本ソーシャルボンドへの投資が開発途上地域の経済・社会の開発、日本及び国際経済社会の健全な発展のために活用されることにより、地域社会の発展に繋がっていくことを期待し、投資を決定いたしました。

今後も、当金庫はその公共性・公益性に鑑み、持続可能な社会の形成に向けた社会的責任を果たしていきたいと考えております。



この街との“つながり”が誇りです